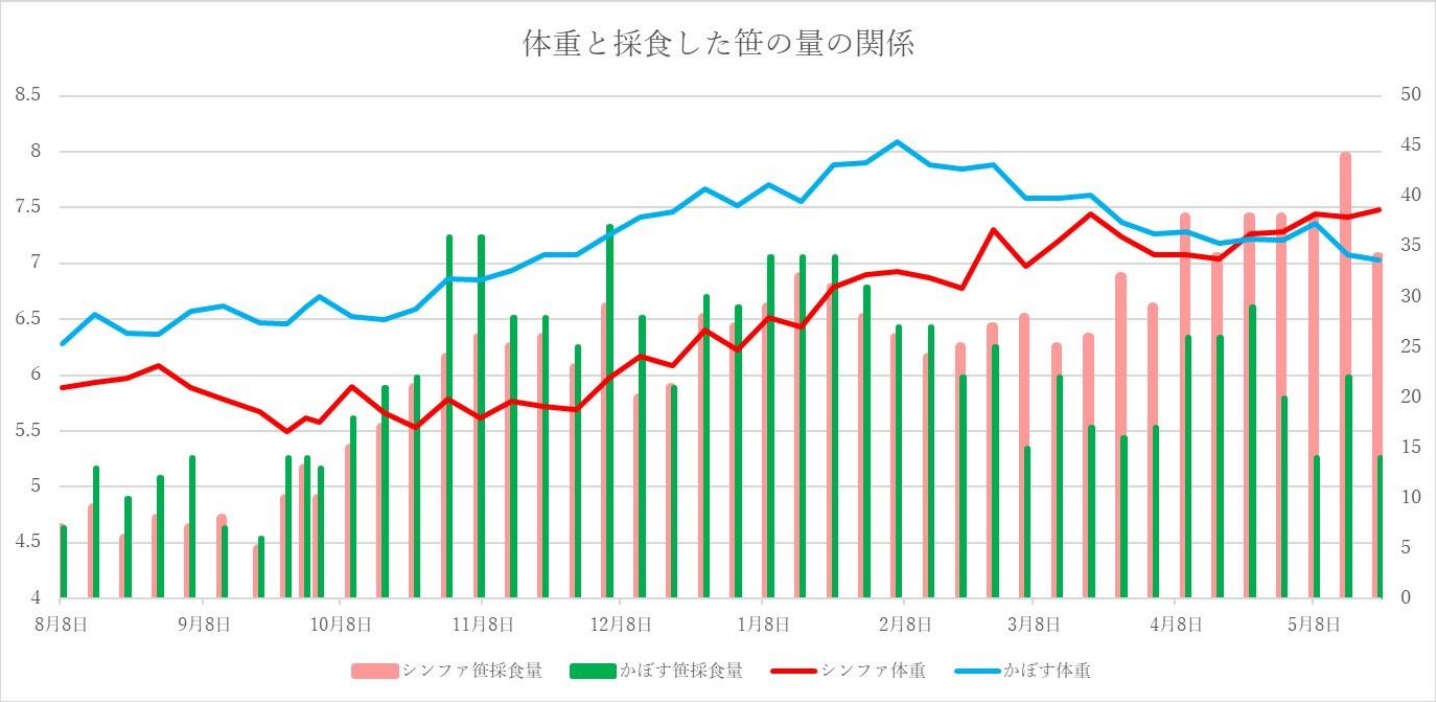
Entry No.	22-1

推薦する取り組み	園館名
レッサーパンダの導入に伴うサスティナブルな取り組み	熊本市動植物園

推薦理由	熊本市動植物園は、2022 年 3 月、レッサーパンダを新規導入（オス 1 頭、メス 1 頭）した。レッサーパンダは笹を主食とするが、当園は平坦な土地で近隣に竹山がなく笹の入手が困難であり、笹搬入業者 1 業者に依存するしかなかった。しかし、飼育していく中で、レッサーパンダの笹の嗜好性が高く、特に孟宗竹を好み、時期により 3 年物、5 年物、竹の上部、下部と好みが変わることがわかった。 そこで、新たな笹の入手方法を模索し、国の事業である「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」（荒れた山里林を地域住民で整備する取り組みを支援する制度）を利用できないか、熊本県森林組合連合会（以下、県森連）へ相談した。県森連からは、竹山伐採後の竹や笹の処理に困っている現状があり、笹を園へ搬出することで資源活用できるのではないかと提案があり、4 団体から協力が得られるようになった。レッサーパンダの現在の嗜好性や採食量を県森連に伝え、県森連から協力団体に搬入を打診し、入手可能な団体が妄想竹５～６本搬入している。業者と併せて、週１２本の妄想竹が搬入されている。 その結果、時期や思考に合わせ新鮮な笹の安定的供給が可能になり、笹の採食量増加に伴って体重も増加し、粘膜便や未消化便は見られず、毛艶よく健康維持につながっている。 尚、レッサーパンダが食べなかった笹や、余剰の笹については、他の動物（ゾウ・サイ・カピバラ等）の餌となり、節のある桿部分もアフリカゾウのエンリッチメントに役に立っている。 この制度を利用した団体や業者からは、荒廃していた竹林の山の整備につながり、筍も生え、景観も良くなったと報告を受けている。このように、この持続可能な取り組みは動物のみならず、地域整備にも役立つ事業となっている。



Entry No.	22-1

レッサーパンダ

笹　カピバラ

アフリカゾウ　エンリッチメント

放竹林に筍

Entry No.	22-2

推薦する取り組み	園館名
県森林組合との協業について	熊本市動植物園

推薦理由	民間業者だけでは十分な量が賄えない笹の調達には、レッサーパンダを飼育しているどこの園も頭を抱えているが、熊本市動植物園は県の森林組合と協業することでその問題を解決している。園の提示した条件に大枠で合致する竹や笹を納入してもらっており、これで多い時は日に5回というペースで交換給餌出来る環境が整った。食いの悪い笹や瑞々しさが失われた笹をすぐに交換する事で食欲の低下を防ぎ、本来の主食である笹の摂取量を落とすことなく、個体が望むだけの十分な量を提供する事が可能となった。これにより栄養補給や体重維持を目的とした、りんごやその他補助食に頼る必要性はほぼ無くなった。交換した笹は他の草食獣の飼料として提供されるが、該当草食獣にとっても食の変化という点でメリットがある。その効果と思われる事象を述べる。 ・光の反射や見栄え等、毛艶や毛並みが素晴らしい。他園の個体と明らかな差がある。他園を知る多くの方が同様の感想を口にされる。換毛期の外見劣化もない ・排泄での軟便は皆無。量も多い ・来園時と比べオスの体がかなり大きくなり筋肉質化した。ジャイアントの研究で笹と腸内細菌に関する論文が発表されているが、これと同様の事象が体内で起きていると推測される ・初ペアリング1年目での交尾、妊娠、出産（安産） ・妊娠期間は短めだったにも関わらず、体重は 140 グラムで標準値上位 園と森林組合両者合意の下、この運営は無償で行われており、費用という最大の問題をクリアしている。森林組合としても「伐採した竹の処分」「社会的貢献」という点でメリットがある。加えて「種の保存への寄与」という役割の創出となった事で、組合としては新たなる存在意義を獲得したともいえる。環境エンリッチメントという枠だけに留まらず、現代社会における動物と人の共生というテーマからも、大いに意義のある取り組みであると感じる。